

水産練習船による、現行教育内容の維持、充実可能性の比較

	新1隻体制+小型船	従来の2隻体制維持+小型船	
	新造大型船	新造中型船(+現・神海丸)	(+現・神海丸)
漁業技術の習得	マグロ延縄漁業、イカ釣り漁業	イカ釣り漁業	マグロ延縄漁業
航海・機関操作技術の習得	沿岸～遠洋航海	沿岸～沖合航海	沿岸～遠洋航海
海洋(環境)調査技術の習得	沿岸～遠洋航海	沿岸～沖合航海	沿岸～遠洋航海
産業理解教育	国内・国外	国内	国内・国外
国際理解教育(外地寄港地活動)	アメリカ・大韓民国	× (⇒神海丸で対応)	アメリカ・大韓民国
規律ある船内集団生活	○	○	○
健康(体調)管理指導	○	○	○
マンツーマンに近い、意欲を高める指導	○	○	○
クラス運営(乗船者人数)	本科40名(クラス全員) +専攻科20名	本科20名 (コース単位に分割)	本科20名(コース単位に 分割)+専攻科20名
船員数と実習生徒数	船員22～25名、生徒60名	船員10名、生徒20名	船員22名、生徒40名
操船訓練	○ (小回りが利かない。浅瀬、 小規模港に入れない) ⇒小型船で実習	○ (小回りが利く)	○
当直体制の訓練(運転中の見張り、 停泊中の見張り)	○	○	○
危機管理の訓練(防火、防水、避難)	○	○	○
出入港作業	○	○	○
船体・機関・漁労設備の整備・点検・ 保守の訓練	○	○	○
漁具、航海器具の整備・点検・保守の 訓練	○	○	○
設備、作業・居住空間など産業現場 船との環境類似性(※)	△	△	△
船員としての甲板作業(キャリア教 育)	○	○	○
網漁業の実習(まき網、底引き)(※)	× (乗組員・網漁業技術・船団の 確保困難)	× (同左)	× (同左)
漁業の実習(かにカゴ)	△	△	△
漁業の実習(イカ釣り)	○ (神海丸H9～17実習実績アリ。 装備着脱容易)	○	○ (神海丸H9～17実習実績アリ。 装備着脱容易)
漁業の実習((マグロ)延縄)(※)	○	× (⇒神海丸で対応)	○
船上での魚加工作業(冷凍)	○	△	○
漁具、航海器具の整備・点検・保守の 訓練	○	○	○
航海日数の相違	3ヵ月の長期航海生活	30日程度の短期航海生活	3ヵ月の長期航海生活

※どの漁業実習を主とするかで船型、実習内容が異なる